

第2回日本地震工学会「首都圏における地震・水害等による複合災害への対応に関する
委員会 議事録

日時：2014年8月1日（金）10:00-12:00

場所：東京電機大学千住キャンパスアネックス3階プレゼン室

出席者（敬称略）：安田会長、久田委員長、猪俣、加藤、黒沢、庄司、末松、中村、古屋、
増田、大原（文責）

オブザーバー：石川（久田研）、小林（電機大）、後藤、菅野、松田、山下（足立区）

配布資料

- ・第2回 議事次第
- ・第1回 議事録（案）
- ・委員名簿
- ・SIP（戦略的イノベーション創造プログラム）研究開発課題提案書
- ・被災レベルの設定について（久田）
- ・新宿駅周辺地域における防災・減災活動について（久田・村上）

議事

1. 前回の議事録確認

2. 報告

- ・久田委員長より、SIP（戦略的イノベーション創造プログラム）に関して研究課題「巨大都市・大規模ターミナル駅周辺地域における複合災害への対応支援アプリケーションの開発」（研究責任者：久田委員長）への応募に関するご報告があった。本課題では、大規模ターミナル駅である新宿駅と下町低地の北千住駅周辺地域をテストフィールドとして、地元大学である工学院大・東京電機大学が拠点となり、平常時には各自の災害リテラシーと対応力向上を推進し、災害時には災害情報に基づいて適切な対応を行うことを可能とする、一連のアプリケーション技術を開発することを目的としている。
- ・日本地震工学シンポジウムにて、都市の避難、津波避難の2つのOSを予定している。論文締切は8/8である。

3. 研究活動紹介

- ・庄司委員より「ライフラインの地震被害想定」に関する話題提供があった。東北地方太平洋沖地震による上下水道、通信埋設管、道路、電力の被害を検証した結果、地震動や地盤変状と被害率との関係が明らかとなった。
- ・加藤委員より「地震火災の現象の解明と対策」に関する話題提供があった。地震火災に

よる人的被害には、逃げ遅れによる死と逃げ惑いによる死があるが、未解明の部分も多い。大都市の広域避難に関しては、「避難場所まで逃げられるか、避難場所に入りきれるか、避難場所の中で炎に囲まれた時にマネジメントできるか」が課題である。

- ・久田委員長より「被災レベルの設定」に関する話題提供があった。災害対策では大は小を兼ねないので、地域特性に応じた被災レベルを設定する必要がある。

4. 総合議論

- ・幹事団を結成し、幹事長：大原、幹事：小林委員（東京電機大学）、庄司委員（筑波大学）、増田委員（芝浦工業大学）とする。
- ・研究の進め方としては、以下の流れを想定している。今年度はまず、都市型複合災害に関する現状と課題の整理を行う。

- ① 都市型複合災害に関する現状と課題の整理
- ② 被害の予測
- ③ 予防としての具体的な対策方法の提示
- ④ 発災時の対応方法の提示
- ⑤ 地域企業などの BCP、DCP、エリア防災計画の立案への利用方法の提示

- ・足立区・北区・荒川区を対象とした荒川周辺でのタイムライン作成のための検討会が 8 月 22 日に開催される予定である。

5. その他

- ・次回：10 月 14 日（火） 10－13 時、工学院大学にて
話題提供の予定：猪俣委員、大井委員、久田委員